

海外研修視察報告書

平成 29 年 12 月 4 日

長崎県議会議長 様

長崎県議会議員 西川克己

海外研修視察について下記の通り報告いたします。

記

1. 期 間 平成 29 年 11 月 21 日～平成 29 年 11 月 25 日
2. 視察先 シンガポール共和国
3. 視察目的

シンガポールは、カジノの導入は遅かったが、観光振興で見本的に成功している。

カジノばかりでなくホテル・コンベンション・観光開発・空港・航空路整備等について総合的に調査し、今後の長崎県の観光振興対策の参考にしたい。

4. 調査事項
観光振興対策、航空路、カジノ（IR）、ホテルのグレート等
5. 調査結果

11月21日

「長崎空港発着 直行便で行く シンガポール」

「長崎から直行チャーター便で行くシンガポール」にIRを含むシンガポールの観光振興対策を視察研修するため参加した。長崎市内の人々が多く、雲仙市の「女将」さん達も観光PRに参加していた。県北の人は少なかった。

夜の観光に力を入れているシンガポールだけに、夜に見える観光施設も多い。今夜は、JTBがセットしたマリーナ地区を2階建てオープントップバスで周遊。まず、マリーナベイサンズホテルに集合し、ライトアップされた巨大ツリー、音楽と光に包まれるショーは迫力満点だった。

次に、マーライオン公園でライトアップされたマーライオン像やマリーナベ

イサズホテルの遠景を見物、その後 クリスマスイルミネーションで華やかなオーチャードロードを車上から見物。

長崎の夜景も、こんなに活かされないかなと思う。

9時過ぎホテル着。 1日が終わった。

11月22日 10:30 ジェトロ訪問

Raffles Quay Hong Leong

ラッフルズ クエイ 16、豊隆ビル 38階

所長 石井淳子

シンガポール共和国の概要をお聞きし、少々質問させていただいた。

その中で、○シンガポールビジネスファンデーション (SBF)

○中小企業ファンデーション

が、毎年開催されており長崎県も参加したらと助言された。

日本食品はまだ2.5%程度のシェアである。イチゴはほとんど韓国産であるが美味しくないとの事である。また、日本食レストランは2,100店あるそうで、シンガポール国民は日本食が好きだそうだ。その上、日本酒も結構好まれておるそうだ。

長崎県産品の輸出のチャンスがありそうだ。

また、日本へのリピーターは、個人的にSNSなどを参考に7~8日間の期間で行っており、都会ではなく田舎体験型、特に田植えや稲刈り、焼き物、酒蔵ツアー等独自性で楽しみ、情報発信もよくしているらしい。

オーチャードロードの高島屋デパートは、すごく人気があり素晴らしい経営状況であるとのことであった。

マリーナベイサイドのIR

午後は、マリーナベイサズのカジノを視察した。

開発費 70億シンガポールドル

2017年営業開始、延べ床面積15,000㎡、地上4階、地下1階。

ゲーム機台数 約2,500台、雇用者 9,000人。

ホテル客室 2,561室、ショッピングモール 272店舗。

MICE施設面積 5階 120,000㎡、会議室 250室。

収容可能人数 45,000人。

2015年売上 29億 5,240万米ドル との事で、スケールの大きさにただ驚くばかりである。

ギャンブル依存症対策のポスター掲示、パンフレットの配布も数ヶ所してあった

セントーサ島のリゾート「ワールドセントーサ」も、24日に視察した。

夜はJTBとシンガポール政府観光局の協力で「シンガポールナイト」の催事があり、今回の長崎・大分・鹿児島三地区からの双方向チャーター便利用のガーデンラプソディ、グランドフォレスト、フラワードーム見物と夕食、くじ引き、獅子舞いのショーがあった。日本でもシンガポールからのお客様へのおもてなしのショーがっていると、日本・シンガポールの相互交流が活発になればと思う。グランドフォレスト、フラワードームともスケールの大きい施設であった。

11月23日

午前10時半 アポイントの日本政府観光局（JNTO）
シンガポール事務所 ラッフルズ クェイ 16、豊隆ビル 15階
三宅正寿 所長、武藤成弘 次長 訪問

シンガポールは、新学期が1月で12月が学期末との事。

昨年までマレーシア・クアラルンプール、インド・デリーが人気で
年間 136万人の出国だそうである（人口 561万人）

20～30代の若い世代が、3～4月の春の桜・9～11月の秋の紅葉に魅力を持っている。

アジア特に中国中心の東アジアは香港が核で、東南アジアはシンガポールが核でそこから各国へと散らばる。 日数 8日間位欲しい。

10月末にチャンギ国際空港のターミナル4が完成し、LCCの利用がし易くなった。また、自動チェックイン導入等入出国のスムーズ化を企っている。しかし、双方向チャーターは、回数で条件が合わないと言われた。先日、オーチャードの高島屋で、日本トラベルフェアがあり、多数のシンガポール人が来店していたそう。高島屋はシンガポール人に人気があり、集客力もあるとの事で、JTB等との連携で更に強固になろう。また、日本の和牛の

ブランド牛も良く売れているそうだが、長崎牛はまだ売っていないようだ。そこで、高島屋でのフェアを核に長崎の観光や物産をもっと売り込まねばならないと感じた。

午後は、J T B シンガポール（アジアパシフィック本社）に久保所長を訪ねた。アンソン ロード 79 番地

シンガポールから日本にお客を送り出しているが、1 番人気は北海道・雪・リンゴ等で、九州は1 県ではなく、オール九州で対抗すべきだと言われた。また、J N T O、J E T R O の所長さん達と同じ感覚で旅行日数、L C C 運行の条件、周遊型観光、個人旅行、S N S 等の普及、J R パス等外国人に向けた環境整備が必要であると強調された。民間と行政の努力がまだまだ必要であると感じさせられて、お別れした

J N T O、J E T R O に長崎県関連のパンフレット類がないのは淋しかった。

夜は、ナイトサファリツアーに参加。食事付 8,000 円と安くはないが、日本人にも人気が高いので、参加してみる。

日本からの修学旅行生、一般ツアー、チャーター便のお客さんと日本人の比率が高かった。熱帯の夜行性動物が放し飼いされており、目の付け所が良い施設だと思った。広い土地があればの事であるが。

1 1 月 2 4 日 最終日 午前 セントーサ島へ向かう。

ケーブルカー（ロープウェイ）でセントーサ島に渡る。

島内は、ケーブルカー、モノレール、バス、タクシーで周遊される。まず、I R があるリゾートワールドセントーサを訪ねて見た。マリーナベイは「都市中心部・高密度・商業的」がコンセプトだがセントーサは、「郊外・大型・多様性」であり、家族・レジャー客がターゲットである。

49 h a に、66 億シンガポールドルを投入し、ユニバーサルスタジオ、6 ホテル、マリンライフパーク（水族館等）15,000 m²、ゲーム機 2,160 台、売上 24 億 100 万シンガポールドルの規模である。中に入ったが、老人、婦人、若者、服装もカジュアル系が多く、別フロアでシンガポール人専用の区域があり、カジノ規制、ギャンブル依存症防止等の対応が見られた。なお、マリーナベイと共に、抑制の情報伝達（パンフレットや銀行 A T M の未設置、入場監視等）が、よくされていた。

昼食を、リゾート内のレストランで子供や老人と一緒に食事。

14:00

シンガポール高島屋へと向かう。折しも、クリスマス商戦真っ只中で、特に1階の催事場では子供向けのクリスマスプレゼントがフロア全部展示されており、レジに並ぶ人は長蛇の列であった。2階以上は、ブランド品コーナー、地下は食品売場で、日本食材も多くあった。また、2階の本屋は「紀の国屋」で、日本の本、世界の本の売場面積も広く、稀に見る盛況ぶりであった。

夕方から政府が食物の屋台を集中して、衛生管理もし、国民・外国人に人気のニュートンフードセンターに行き、食事。

シンガポール最後の食事だから、地元の人に人気のチリクラブとチャーハンを食べたが、あまり辛くなく、日本人に合う味だった。また、西洋人の客もいっぱい来ており、真にグローバルなシンガポールである。

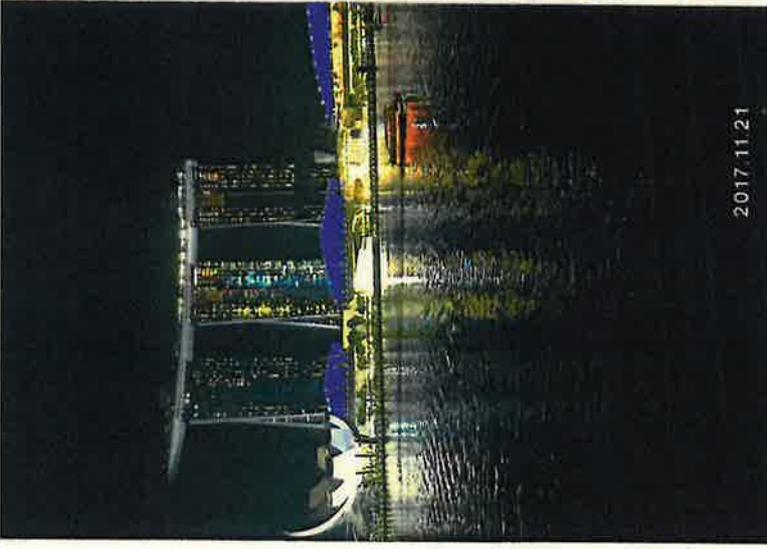
最後に、シンガポールは都市国家で、東京23区程度の広さであるが、ガーデンシティと言われるくらい、緑も多く、観光地としてコンパクトにまとめられ、歴史的にイギリスの影響もあり、魅力ある観光地であると思う。

チャンギ国際空港も、ターミナル4が完成し、東南アジアのハブ空港として準備万端である。さらに、地理的にも東南アジアから世界へのゲートウェイと再確認させられた。

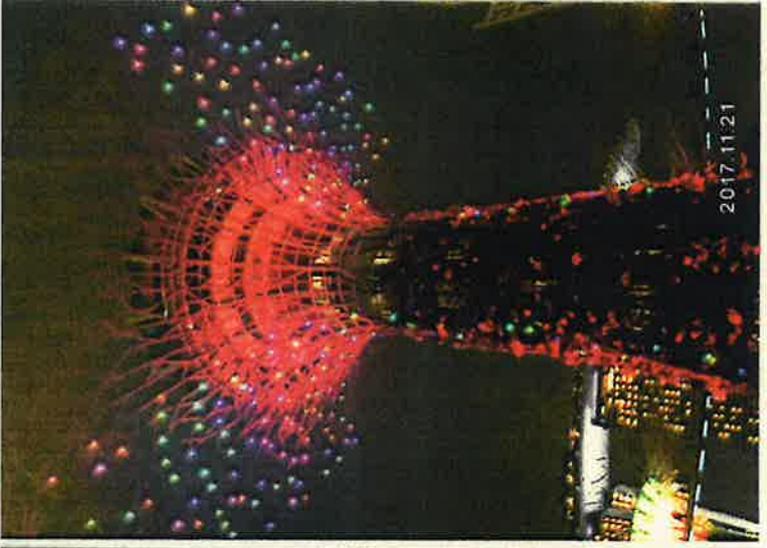
ホテルもほとんど高級ホテルで、大理石張り、高層で客室も500以上、世界の有名ホテル系列ばかりで、ロビー・フロントも吹き抜けて広々としており、レストランもホテル内に和・洋・中華 数ヶ所あり、結婚式や各種国際会議等十分対応できる体制であった。この様なデラックスホテルを長崎市・長崎県内にも必要であると再認識した。

海外視察研修行動表

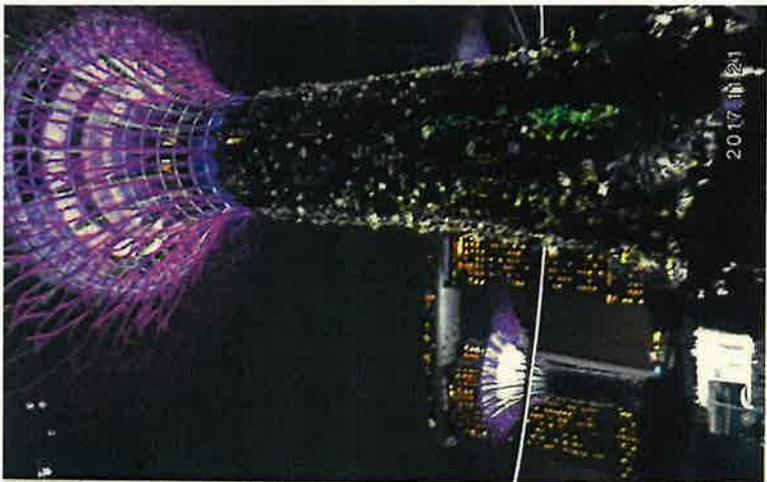
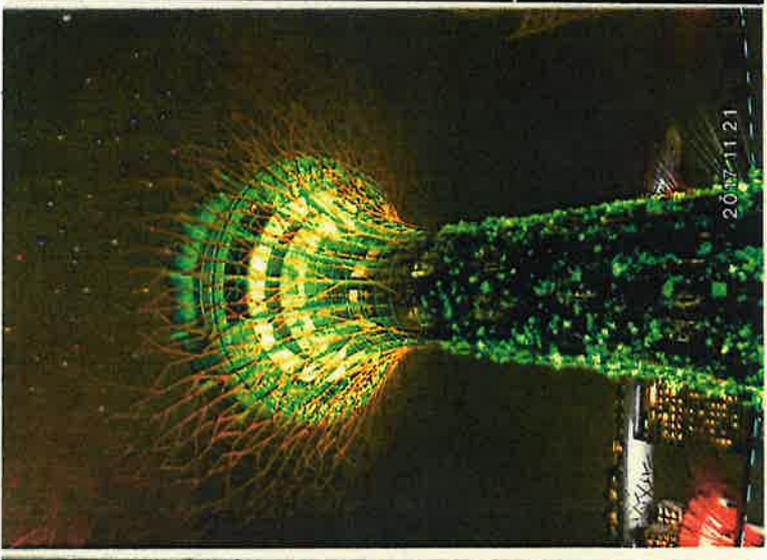
月 日	時間	調査内容
11月21日	11:00	シルクエアー MI-8231 便長崎空港発
	16:15	シイガポール チャンギ国際空港着
	19:10	マリーナベイサンズよりオープントップバスにて出発 夜の観光（キラキラ夜景バス） ガーデンズ・バイ・ザ・ベイ-ガーデンラプソディ マーライオン公園 オーチャードロードなど夜の街並み
	21:45	ホテル着
11月22日	10:30	ジェトロ訪問 石井淳子所長
	13:30	マリーナベイサンズ カジノ
	16:30	ホテル出発 ガーデンズ・バイ・ザ・ベイで「シンガポールナイト」 シンガポール政府観光局、JTB、 チャーター便利用長崎・大分・鹿児島ツアー客
	21:30	ホテル着
11月23日	10:30	日本政府観光局（JNTO） シンガポール事務所 三宅正寿所長、武藤成弘次長
	13:00	JTBシンガポール 久保裕一所長
	17:00	ホテル出発 ナイトサファリ
	22:30	ホテル着
11月24日	9:00	ホテル出発 セントーサ島へ
	14:00	シンガポール高島屋（オーチャードロード）
	17:30	ニュートンフードセンター
	19:30	ホテル着
	21:00	ホテル出発 空港へ
11月25日	1:10	シルクエアー MI-8232 便シンガポール出発
	8:20	長崎着



マール山公園より マリナベイサイズ



ガ-デンズ、ハバロベイ

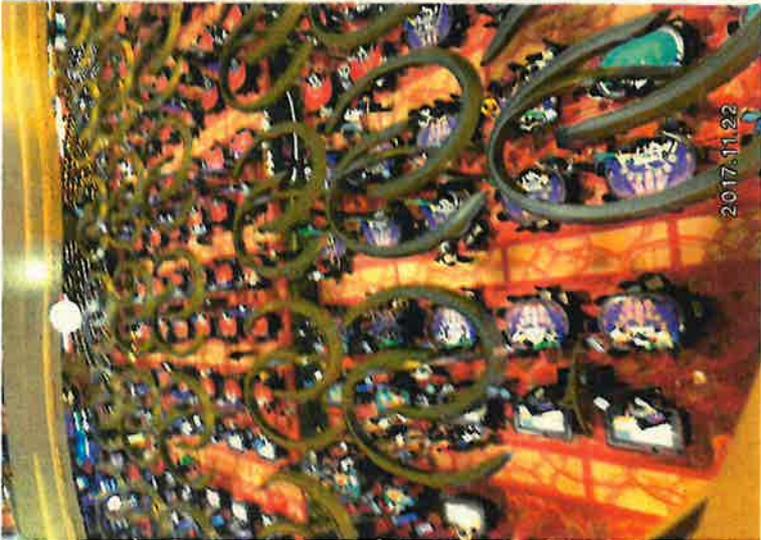


マール山像

ホーランドロード町並夜景

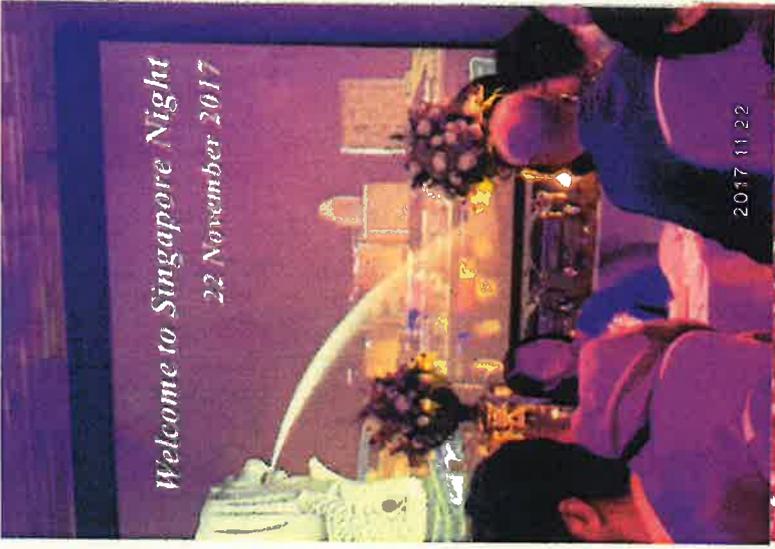


JETRO、JNTO があり
ラッブルズ 7E1 (ア-4x-ト道)

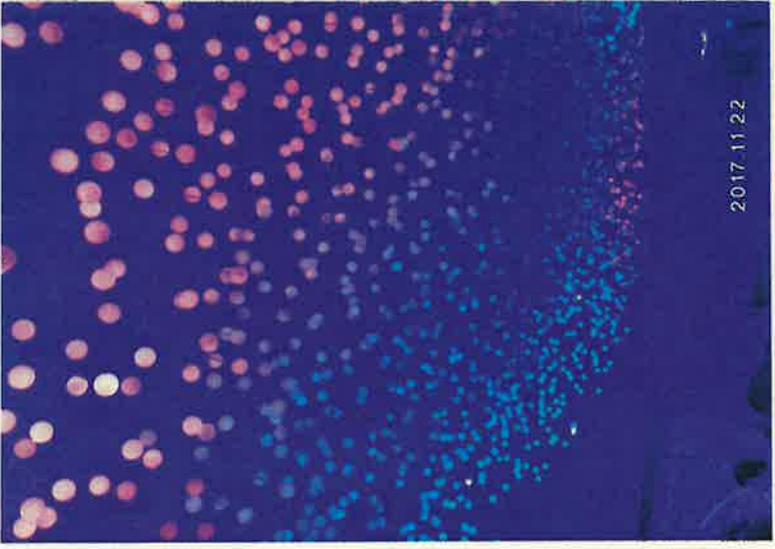


地下1階の大遊技場

マリーナベイ Sands のカジノ



2017.11.22



2017.11.22



2017.11.22



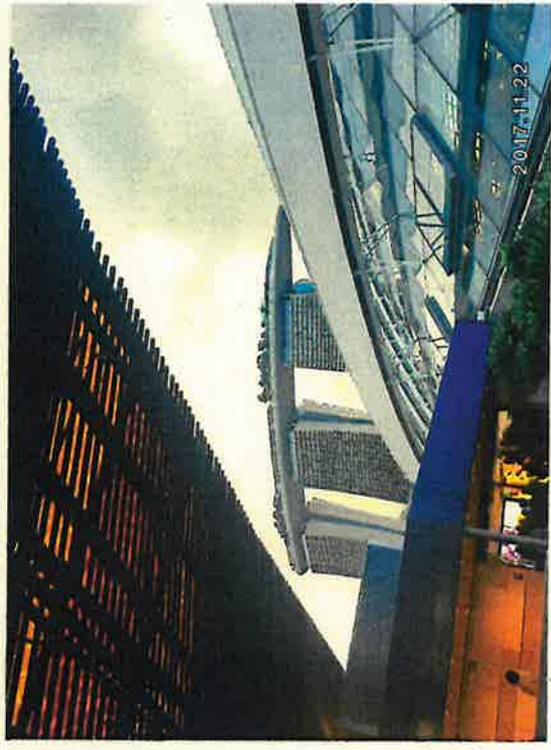
2017.11.22



2017.11.22



2017.11.22

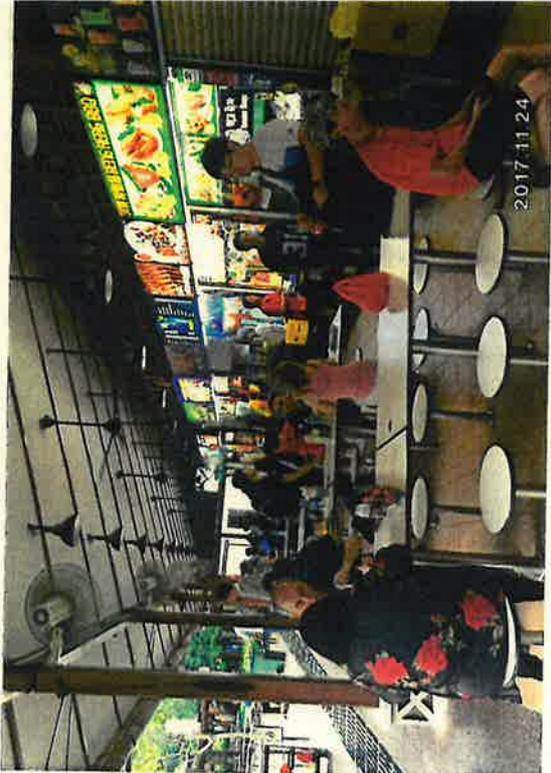


2017.11.22

丁TB、エシガホール政府観光局 共催

エシガホール ナイト

ガーデンズ・バイ・ザ・ベイロム



三ツ打ボール 高島屋 | 階 雑事場 クリスマスプレゼントセール

ヒルメの会館の レストラン



2017 11 24



2017 11 24



2017

セント-サ島



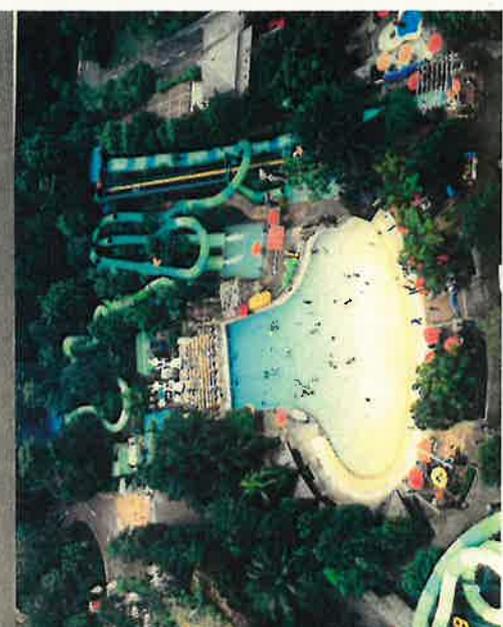
2017.11.24

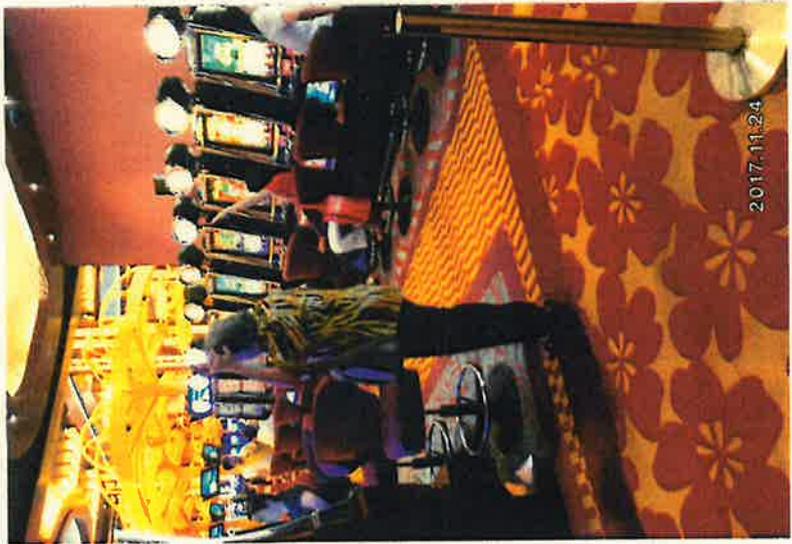


2017.11.24



2017.11





セト-サ島 リン-トウ-ルク



— 2017.11.24 —

海外研修視察報告書

平成 29 年 12 月 6 日

長崎県議会議長 様

長崎県議会議員	田中 愛国
同	中島 廣義
同	浅田 眞澄美
同	中島 浩介
同	大久保 潔重

海外研修視察を実施しましたので、つぎのとおり報告いたします。

1 日程 平成29年11月12日～平成29年11月18日

2 訪問国 スペイン（マドリード・バルセロナ）

3 調査目的

- ・美術・芸術センターの運営及び来客の対応について
- ・スポーツにおける人事育成と施設の整備・管理状況について
- ・スペインの概況について
- ・世界遺産の観光促進について、観光客受け入れ体制、情報収集。
- ・高速交通の状況
- ・人口減少対策（少子高齢化対策）の取組状況

4 調査事項

- ・世界遺産が豊富であり、スポーツも盛んな国であるスペインを視察することにより、世界遺産のアピール方法や観光客の受入体制の視察を行う。
- ・スポーツ振興を通じた人材育成の視察を行う。

5 調査結果

別添報告書のとおり

6 調査により得られた成果及び県政への反映方策

別添報告書のとおり

海外研修視察報告書

平成29年12月6日

長崎県議会議長 様

長崎県議会議員
大久保 潔重

海外研修視察について下記の通り報告いたします。

記

- 1、 期間 平成29年11月12日 ～ 平成29年11月18日
- 2、 視察先 スペイン（マドリッド、バルセロナ）
同行者：田中愛国 中島廣義、浅田ますみ 中島浩介
- 3、 視察目的
 - 長崎県で力を入れている文化芸術、スポーツ、観光分野などで先進国・スペインにおける取り組みを調査し、本県の今後の振興策の参考にする。
 - 世界遺産37を保有するスペインの保存管理状況、観光客受け入れ体制などを調査し、今後の長崎県の課題の整理と対策の参考にする。
 - スペインにおける観光都市の環境保全対策や高速交通を調査し、今後の街づくりに生かす。
- 4、 調査事項
 - 長崎県美術館と交流のあるプラド美術館の運営、来客対応、今後の連携について。
 - スポーツにおける人材育成と施設整備、管理状況、今後の相互交流について。
 - 在スペイン日本大使館の表敬訪問とスペイン概況について。
 - マドリッドからバルセロナ間の高速交通新幹線について。
 - バルセロナ市の観光戦略、都市開発プロジェクトについて。

○バルセロナ市の世界遺産・サグラダファミリアなどの様々な情報収集。

5、 調査結果

11月14日(火) 10:00 プラド美術館

副館長アンドレス・ウベダ氏と面会。彼は館長代理であり、コレクションの管理ディレクターである。プラド美術館は世界でも屈指の優れたコレクションを誇り、総数2万点を超える収蔵作品は古代から20世紀初頭までをカバーしている。特に西洋古典絵画を専門とし、自国スペインの芸術家の作品と歴代のスペイン国王が収集した作品が中心である。

現在年間300万人の来客があり、エル・ボスコのコレクションで観客が増えたという。

プラド美術館の運営管理に年間約4,000万ユーロの経費が掛かる。その内、1,300万ユーロが国からの補助。残りを入場料、貸し出し料、企業・個人からの寄付で賄っている。

長崎県から学芸員を派遣しているが、今後も長崎県との交流を続けたい旨の発言があった。日本では東京、京都、長崎と連携している。

副館長から我々に、どういうコレクションに興味があるか尋ねられた。

2019年プラド美術館は創立200周年なので、この年のコレクション貸し出しは難しい。

戦時中の在スペイン公使の須磨氏のコレクションが長崎県立美術館にある。

東洋的なものについては、例えばカタルーニャの芸術家でアジアの一人の幼児の絵画が好評で、ジャポニズムはスペインでも興味を呼んでいる。

特に日本の版画については展示会もやり、欧米での関心も高い。

プラド美術館は約400人のスタッフ、うち警備が150人、絵画などの修復技術員が50人。

11月14日(火) 13:30 メルカドーナ

スペインの奇跡と呼ばれているチェーン店のスーパーマーケットで、長い景気低迷の中、一人勝ちとも揶揄され、スペインの経済史をも塗り替えた大人気のスーパーである。

経営は国内のみであるが、1981年には僅か8店舗だったメルカドーナは、2000年には493店舗、2013年には1411店舗にまで成長し、現在も年間60~70店舗の新規出店を続けている。

マーケットシェアでは2000年に7%だったシェアは2013年に14%まで拡大し、スペイン国内首位の同社の売り上げは2012年度191億ユーロにも及ぶ。価格と質で勝負し、現在8000種類の商品のうち約4割はプラ

ロにも及ぶ。価格と質で勝負し、現在8000種類の商品のうち約4割はプライベートブランド。

従業員7万人の全てが正社員であり、労働組合によれば他の小売りチェーンは平均して6割ほどの従業員がパートタイム契約であるという。

11月14日(火) 16:00 スペイン教育文化スポーツ省

高等スポーツ評議会のハイメ・ゴンザレスゼネラルディレクターやハイメ・デルレイ会長代理と面会。

スペイン経済のうちスポーツが占めている割合は2.8%。ブランドとしてのスポーツの影響は大きい。健康や付加価値など国全体がスポーツの意味を把握し、教育の中で積極的に推進している。

幼少の頃からの体作り、トップアスリートの育成としての新たな価値の創造。

国内のプロモーションにおける4つのキーワードは、女性、学校教育(小学から大学)、障害者、ハイレベル選手育成である。

高等スポーツ評議会直属の国内4つの施設は、マドリッド、バルセロナ、グラナダ(シエラネバダ)、レオンに高性能スポーツセンターがある。

本国だけでなく外国人選手も来ているが、日本の水泳チームも合宿をしている。グラナダは周りに3000m級の山々があり、高地トレーニングのため特に外国人が多い。

マドリッドのセンターは、約15万㎡の広大な敷地に学校や寮も整備されている。陸上、体操、水泳、水球、シンクロナイズスイミングなどが盛ん。

どのスポーツも分け隔てなく、平等にプロモーションしている。サッカーはクラブという組織でやるのが通念。

ハイレベルスポーツ選手の子供たちは100%国の奨学金で励んでいる。スポーツだけでなく学業もしっかりやらないと、奨学金は続かない。各スポーツ団体から評議会に申請が出て、評議会で決定する。

指導者の育成は、国が様々な試験をしてトレーナーなどのライセンスを与える。身分保障をしっかりする事で、指導に打ち込める。

ハイレベル選手の才能発掘、育成のシステムができています。それぞれの競技のトレーナーが目利きで才能を見出した場合は、上のランクの育成機関に挙げる。更に上のランクのトレーナーが育成をする。ピラミッド型のシステム構築。

選手の第2の人生、引退後の人生をフォローする制度を作っている。選手をいかにして普通の生活に戻してやらせるかが重要。

オリンピック・パラリンピックのメダリストは、次の4年後を目指して打ち込めるよう資金が出る。ADOという制度で日本のトヨタも資金提供している。

スペインは現在、東京オリンピック前のトレーニングキャンプで、水泳、バ

ドミニトン、空手、ハンドボールなどが日本で行っている。

施設視察中に2019年、2020年空手女子世界チャンピオンのサンドラ選手と会った。近日、東京で合宿予定との事である。

11月15日(水) 11:00 在マドリッド日本大使館

水上正史特命全権大使、草野2等書記官と面会。

スペインの概要については、面積：50.6万km²(日本の約1.3倍)、人口：4,646万人(2016年7月)、首都：マドリッド(人口約315万人)、宗教：約75%がカトリック、政治体制：議会君主制、元首：フェリペ6世国王(2014年6月19日即位)、議会：二院制(上院266、下院350議席)、任期4年で解散制度あり、政府：ラホイ民衆党政権(2016年11月第二次政権発足)、首相：マリアノ・ラホイ・ブレイ首相(親EU)、通貨：ユーロ(1ユーロ=約135円 2017年11現在)、主要産業：自動車、食料品、化学品、観光産業

(参考) GDP：約1兆1,997億ドル、一人当たり：25,843ドル、経済成長率：3.2%、物価上昇率：0.0%、失業率：22.1%、主要貿易品目は輸出入ともに自動車・自動車部品、機械、電気機器、石油・ガス、医薬品、プラスチック製品等である。主要貿易相手国はフランス、ドイツ、イタリア、英国、ポルトガル、米国、中国など。日本の対スペイン貿易としては、輸出額が2,865億円(主要品目：輸送用機器、一般機械、電気機器等)輸入額は3,048億円(主要品目：化学製品、輸送用機器、食料品、動物等)

(2015年IMFによる)

日本との関係は、2018年外交関係樹立150周年。2国間のワーキングホリデイなどハイレベル交流を通じた協力関係の好機である。

長崎県とスペインの関係については、外国人登録8名(2016年6月末)、留学生数1名(長崎大学)、姉妹校交流は長崎外国語大学-サラゴサ大学(サラゴサ市1989年)、アルカラ大学(アルカラ市2002年)、ナバラ大学(パンプローナ市2002年)がある。

主なスペイン要人の来県実績としては平成19年3月にマリア・ガルシア・イエロ(国立ソフィア王妃芸術センター副館長)が長崎県美術館視察に。平成19年10月にはミゲル・アンヘル・カリエド駐日大使とアントニオ・ガリーゲス(スペイン日本財団理事長)が第10回日本・スペインシンポジウムに出席のため。平成23年8月はミゲル・アンヘル・ナバロ・ポルテラ駐日大使が長崎県美術館視察に。平成24年6月は同じくミゲル・アンヘル・ナバロ・ポルテラ大使が日本26聖人殉教者列聖150周年記念行事に出席のため。平成24年7月にエドアルド・アスナル・カンポス専任大使(スペイン年にかかる両

国の専任大使) が日本におけるスペイン年への協力依頼のため来崎し、石塚副知事を表敬訪問。平成25年6月は再度ミゲル・アンヘル・ナバロ・ポルテラ大使が美術作家のアントニオ・ロペス氏と長崎県美術館で開催された「アントニオ・ロペス展」オープニングセレモニーに参加された。

スペインの重要性について、フラメンコと闘牛だけでない。人口、経済、日本企業の進出ともに欧州5位の大国である。スペイン語圏人口は約5億人で特に中南米のゲートウェイである。

国内発電構成の内、再生可能エネルギー比率は42%、ドンキホーテの国らしく風力(洋上も含めて)発電が盛ん。また集光型太陽熱発電容量は世界第1位。

ドングリを食わせた豚の生ハムは世界一美味しいのではないかな?

スペインの消費税は21%、10%、4%の3段階がある。

王室がある国と皇室のある日本とは共通点、親近感がある。2017年4月はフェリペ国王夫妻が日本訪問、天皇皇后両陛下と面会された。

日本における朝廷と武士の関係と、ヨーロッパにおけるローマカトリックと各国国王との関係と類似している。

目下の課題は、政治的にはカタルーニャ分離独立問題、経済的には依然高い若年者の失業率(36%58万人)である。カタルーニャは、過去にスペイン国内の小さな王国がまとまる中で、マドリッドが中心になり、バルセロナはスペインとフランスの間で小さな塊になったという経緯が、今日の運動の背景にあるのではないかな?

11月15日(水) 14:00 ベルナベウツアー

マドリッドを本拠地とするプロサッカー3チームの1つであるレアル・マドリッドのホームスタジアムであるサンティアゴ・ベルナベウ視察。世界的人気を誇る有名選手が多数在籍し、100年を超える歴史を有する。スタジアム内に併設のミュージアムには過去から現在の栄光、トロフィーやユニフォームなどの展示もあり、歴史博物館のようであり、やはり長い歴史を感じる。更に併設のショップ(adidas)も日本とは比較にならないほどの品数である。

観客席の地上最高高度は70mであり、観客数は最高85000人である。見学ルートにはロッカールームなどもあり、お気に入り選手のロッカー横で写真撮影もできる。

11月15日(水) 17:00 マドリッド・アトーチャ駅

駅舎はレンガ造りの歴史的建造物の外観をそのまま保存し、中は植物園にし

である。過去にマドリード駅で爆破テロがあったためか、新幹線乗り場のセキュリティチェックは飛行場なみに厳しくしてある。時間も厳守でスタート5分前にはゲートが閉じる。

マドリードからバルセロナ間646km、RENFE（スペイン国鉄）のAVE（スペイン版新幹線）でノンストップ2時間38分。エコノミーで125ユーロ、最高速度300km/時であるが、今後は350km/時運行を目指すという。ドリンク、軽食などの機内サービスも充実している。

道中トンネルはほとんどなく、車窓から広大な畑、岩山、数多くの風車などを望む。

スペインでは起伏の多い国土において強力な大型機関車が必要とされ、また陸続きの他国による鉄道占用を避けたいとの軍事上の理由もあり、他国とは異なる広軌（1668mm）が一般に採用されている。1969年からフランス、ポルトガル国境を超える列車で標準軌（1435mm）との軌間変換可能な車両が開発され、越境時の車輪幅の変換が行われている。このような経緯が、AVE（標準軌1435mm）と国内在来線（広軌1668mm）の軌間変換につながり世界初のフリーゲージトレイン（FGT）の運行になった。

11月16日（木）10:00 バルセロナ市観光課

街づくりや人材教育の戦略プランを策定する前ディレクターで現在バルセロナ市のスポーツ部門顧問であるエンリック・トゥルーニョ氏と面談。彼は1992年バルセロナオリンピックの運営委員であった。当時のサマランチIOC会長がバルセロナ出身である。当時は78%の市民がオリンピックを期待し楽しみにしていたという。

市内を4つのエリアに分けて開発、周囲40kmの環状線で渋滞が20%減った。西側がローマ時代からの古い街、東側を新しい街に。

エンリック氏は顔役なので是非、東京オリンピックの事前キャンプをお願いしたい。ハンドボール以外もあらゆるスポーツの可能性はある。県スポーツ振興課ならびに県スポーツコミッションに伝達する。

11時から2020年に向けた観光戦略プランを策定するアルベルト・アリアス現ディレクターと面談。持続可能な観光都市バルセロナがテーマである。1992年のオリンピック後、観光客はうなぎ上りに増えたが、15年後の2007年客が増えすぎて街が疲労した状態が続いた。この事実は街に元々住んでいる住民が観光客に押されて市民生活が脅かされる状況だと推察される。その後、2015年まで街における集中と分散を進めた。

バルセロナの年間観光客数は約3000万人、内1500万人が日帰りなので、宿泊数は1500万人。

ホテルの数は1992年時118軒、2016年は409軒。ウィークリーマンション（バケーションハウス）は更に急増し、現在約10000戸。

一方、ホテル関係のスタッフの給料は、市内のあらゆる職種の中で一番低い。市の中心部人口は160万人、郊外を含めて約300万人、定住人口はあまり変わっていない。都市計画で地域によってホテル新設を規制するなどの措置で、住んでいる人の生活を活気良くする。徒歩が可能な街、散策の街づくりを推進している。また自転車シェアリングを市が主導している。

世界的会議、祭事、見本市などの催しについては様々なイベントをどんどん打っている。ユネスコがバックか？

交通、ショッピング、文化芸術、安全などの要素を重要視した街づくりプランである。

11月16日（木）13:00 都市開発プロジェクト

スーパーブロックとは基盤の目のように区分けされた街中のブロック9つを1つのセットにしたもので、1つ1つのブロックを通る道路は自動車の走行を規制し、運送会社の自動車や市営バスなどはスーパーブロックの外側を通行するという仕組みである。

自動車による交通渋滞の慢性化、排ガスによる市内の空気汚染の対策のため、2014年のアーバン・モビリティ・プランにより、都市部の人々の移動を自動車以外の交通手段にシフトする試みである。

バルセロナ市議会はスーパーブロックによって次の6つの目標達成を目指している。①より持続可能なモビリティ②公共スペースの再活性化③生物の多様性と緑化の推進④都市部の社会構造と一体性の促進⑤資源の自給自足の促進⑥住民のバルセロナ市の政策参加

スーパーブロックの導入は、同じ空間と資源の共有を通じてブロック毎に小さなコミュニティを形成し、人々のつながりが強くなるのではないか？またマイクログリッドの導入も夢ではなく、さらに環境保全型の都市づくりにチャレンジできるのではないか？

地球上でもっとも歩きやすく、歩行者にやさしいデザインの街を目指しており、この実験プロジェクトを海外にも販売したい考えのようである。

ポブレノウ・スーパーブロック被害者の会のジョルディー・カンピス会長と面会では、逆に問題点も浮き彫りになった。民主的手続きの欠如、住民に対する市側の説明不足、スーパーブロック外側の渋滞・騒音・大気汚染。生活者の移動の時間ロス。駐車場不足、商業衰退、サービスの遅延などである。

世界遺産サグラダファミリアは建築家アントニオ・ガウディの代表的作品で、130年以上も建設工事が続く未完のカトリック教会。1984年に世界遺産に文化遺産として登録、2005年にガウディーの作品群として追加登録。1882年に着工開始され当時は完成に300年かかると言われた。現在は2026年の完成を目指している。生誕の門に飾られている15泰の天使の像の主任彫刻家は福岡出身の外尾悦郎氏である。

他にバルセロナ市内にあるガウディー作品で、集合住宅のカサ・パトリヨとカサ・ミラも視察。現在も一部には住んでいる人がいるという。独特のデザインだが自然と調和されたデザインであると評価が高い。

6、 調査により得られた成果および県政への反映方策

○マドリッドのプラド美術館は世界の主要美術館の1つで、作品の個性と濃密さにおいて他の美術館と一線を画している。長崎県美術館の今後の運営にとって学ぶ点は多数ある。平成21年から24年まで長崎県美術館の学芸員を毎年約1カ月派遣していたが、今後も研修は必要ではないか？先方も長崎県との交流の継続を示唆されたのは収穫だった。さらに2019年は開館200周年で大々的な記念事業を開催する予定であるという事で、大きな期待とともに我々としても何がしかの参画の仕方がないか、模索してもいいのではないか？その事が、2019年以降のプラド美術館の価値が高い作品群の長崎県美術館への貸出しなどにつながるのではないかと考えるものである。

更に長崎県美術館が有する須磨コレクションは我が国有数のスペインコレクションであり、須磨氏が第2次世界大戦時中に在スペイン大使館の公使を務められていた事を鑑みるに長崎県とスペインとのご縁、ストーリー性は今後の芸術文化面での交流を深める一助になると思われる。

○メルカドーナの視察は、第1次産業が盛んで、食材が豊富な我が長崎県にあって、生産・加工・流通・販売などの6次化への取り組みや雇用・業務形態など参考になった。店内にとどまらず市内にもフルーツ店が多い。価格も安く、フルーツを好んで食べる人が多い。果樹栽培が盛んな長崎県でもっとフルーツを食べる運動、さらには移出・輸出促進を図ってみてはいかがかと感じた。

○サッカーはじめスポーツの盛んな国なので、本県におけるVファーレンはじめスポーツ振興、選手や指導者など人材育成やスポーツ施設管理など参考になった。スポーツを国民の健康増進や意欲増進に加えて地域活性化ならびに経済活性化、産業振興と捉える概念は、今後の長崎県の施策に大いに役立つ。スポーツ施設が豊富で、数多くのスポーツ選手を輩出している長崎県でのスポー

ツ振興による交流人口拡大は大きな可能性があり、即始めなければいけない。

バルセロナ市のエンリック氏はスポーツにおける顔役であり、スポーツ合宿など誘致に向けて協力を頂けるとの言葉があった。なるだけ早い時期に、県当局より接触の機会を設け、事前キャンプのなどの申し入れをしてみてはどうか。スポーツ交流では、一層の機運を高めていく必要がある。

○今回の私たちの視察・訪問を契機に、スペインからの長崎県への留学生の増加につながる方策を模索したい。

○九州新幹線西九州ルートは、平成34年にリレー方式で開業予定であるが、スペインの新幹線における駅でのセキュリティーチェックや車内サービスなどは、飛行機並みであり、利用者の安全性の担保、利用者へのおもてなしの向上として参考になる。

○世界遺産が豊富で、観光地として成功しているスペイン・バルセロナの取り組みや受け入れ態勢などを調査し、本県の世界遺産をどうアピールし、観光客をどのように受け入れていくのかなどの視差を得た。同時に世界遺産登録後の維持・管理方法について中長期的な計画の重要性を改めて認識した。今後の議会での議論の対象にしたい。

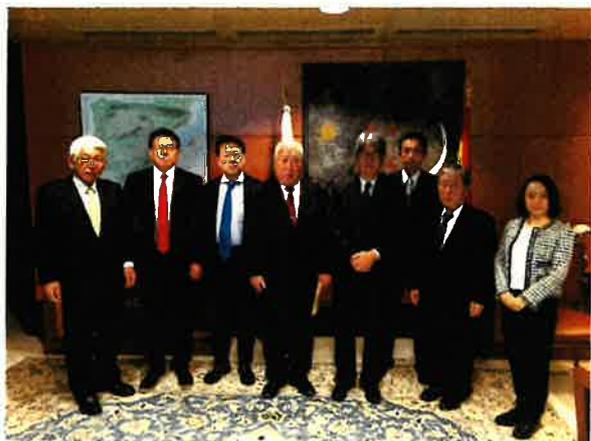
○バルセロナ市の都市計画は、環境保全型で持続可能な観光都市形成、人に優しいデザインの観点から今後の長崎県における街づくりについて大いに参考になった。スーパーブロックは、これから5年後、10年後の経過を注視していきたい。



プラド美術館にて



スペイン教育文化スポーツ省にて



在マドリッド日本大使館にて水上特命全権大使と
R・マドリッドの本拠ベルナベウ・スタジアムで



メルカドーナにて



サグラダファミリアにて



バルセロナ市観光課にて



新幹線AVE



自転車シェア

海外研修視察報告書

平成29年12月6日

長崎県議会議長 様

長崎県議会議員

浅田ますみ

海外研修視察について下記の通り報告いたします。

記

- 1、 期間 平成29年11月12日（日）～平成29年11月18日（土）
- 2、 視察先 スペイン（マドリッド、バルセロナ）
同行者：田中愛国 中島 廣義、中島浩介、大久保 潔重
- 3、 視察目的と調査事項
 - 長崎県で力を入れている文化芸術、スポーツ、観光分野などの先進国スペインにおける取り組みを調査し、本県の今後の振興策の参考にする。
 - ・長崎県美術館と交流のあるプラド美術館の現況と今後の連携について。
 - ・スポーツにおける人材育成の方法や長崎との連携について。
 - 世界遺産37を保有する国の保存管理状況、観光客受け入れ体制などを調査し、今後の長崎県の課題の整理と対策の参考にする。
 - ・在スペイン日本大使館の表敬訪問とスペイン概況について
 - ・バルセロナ市の世界遺産・サグラダファミリアなどの様々な情報収集
 - 観光都市の環境保全対策や高速交通を調査し、今後の街づくりに生かす。
 - ・マドリッドからバルセロナ間的高速交通新幹線について
 - ・バルセロナ市の観光戦略、都市開発プロジェクトについて



4、 調査結果、成果、今後県政への反映方策などについて

11月14日(火) 10:00 プラド美術館

歴代のスペイン王家のコレクションを展示する美術館で1819年に「王立美術館」として開館し1868年にプラド美術館に改称された。世界でも屈指の優れたコレクションを誇り、総数2万点を超える収蔵作品は古代から20世紀初頭までをカバーしている。特に西洋古典絵画を専門とし、自国スペインの芸術家の作品と歴代のスペイン国王が収集した作品が中心である。長崎県美術館は、須磨コレクションなど日本有数のスペインコレクションを有する新しい美術館を設置するにあたり、交流関係を結ぶことが必要となり、プラド美術館を訪問し協議を行った。2004年に交流に関する覚書締結。H21-24年の間に職員を派遣。



副館長アンドレス・ウベダ氏と面会。彼は館長代理であり、コレクションの管理ディレクターである。プラド美術館は約400人のスタッフを抱え、うち警備が150人、絵画などの修復技術員が50人。

現在年間300万人の来客があり、エル・ボスコのコレクションの際は350万を超えた。

プラド美術館の運営管理に年間約4000万ユーロの経費が掛かり、その内、1300万ユーロが国からの補助。残りを入場料、貸し出し料、企業・個人からの寄付で賄っている。マドリッド市からの補助はないが、特別展などの際には、州からの補助があることも。又、大きな収入源でもあるが2019年に創立200周年を迎えるため、この年のコレクション貸し出しは難しいとのこと。

この美術館は「プラドの学校」と呼ばれるように、学芸員対象にコレクションの選定や配置方なども指導している。日本では東京、京都、長崎と連携している。しかし、プラド美術館のグッズは委託会社に任されているが、オリジナルグッズを扱っているのは長崎のみ。日本の版画を展示したこともあり、ジャポニズムはスペインでも興味を呼んでいる。

教育システムや地域への還元もしっかりとやっている。例えば、入場料は通常16ユーロであるが、18時～20時、常設展は無料となる。又銀行などがスポンサーとなり作った財団「プラドアミーゴス」が3歳から退職した方までを対象にした講座を開催したり、子供を招待したりしている。



長崎県としては、今後も学芸員の派遣制度を復活し協力をお願いしたいことと、15周年時の貸し出しについても要請。世界的にも歴史あるこの美術館とのさらなる連携を深めることが、美術ファンの来崎にもつながることを感じた。又、子供達への文化教育も、身近に本物と触れ合う空間の作り方や指導は見習うことがあると思う。

11月14日(火) 13:30 メルカドーナ

スペインの奇跡と呼ばれている、国内のみのチェーン店のスーパーマーケット。長い景気低迷の中、スペインの経済史をも塗り替えた大人気のスーパーである。1981年には僅か8店舗だったが、2000年には493店舗、2013年には1411店舗へと成長し、現在も年間60~70店舗の新規出店を続けている。価格と質で勝負し、現在8千種類の商品のうち約4割はプライベートブランドである。



スペインのスーパー経営などの問題のひとつにスタッフの万引きによる経営悪化。小売業の6割ほどの従業員がパートタイム契約であるという。そこで、ここは、従業員を正社員にすることで働き手の意識向上とサービス向上につながったとのこと。現在の7万人はすべて正社員。雇用のあり

方は、日本でも考えなければならないことである。

11月14日(火) 16:00 スペイン教育文化スポーツ省

高等スポーツ評議会のハイメ・ゴンザレスゼネラルディレクターやハイメ・デルレイ会長代理と面会。



スポーツは、スペインにとって、社会、経済、教育分野の中での大きな礎である。スペイン経済GDPのうちスポーツが占めている割合は2.8%。ブランドとしてのスポーツの影響は大きい。子供の頃からスポーツに親しませることが、健康維持と有能なアスリートを育てるためにも大切。

国内のプロモーションにおける4つのキーワードは、女性、学校教育(小学から大学)、障害者、ハイレベル選手育成である。昔は、女性がスポーツシーンに登場することはなかったが、今は女性の活躍が増えている。どのスポーツも分け隔てなく、平等にプロモーションしたい。

独立している自治州にハイレベルスポーツセンターがある。更に高等スポーツ評議会直属の国内4つの施設は、マドリッド、バルセロナ、グラナダ(シエラネバダ)、レオンに高性能スポーツセンターがある。最優秀スポーツ選手や国内外からの合宿も多い。2016年3月には、日本の水泳チームも合宿をしている。

4つのセンターには各400名が収容できる。マドリッドのセンターは、約15万㎡の広大な敷地に学校や寮も整備されている。ハイレベルスポーツ選手の子供たちは100%国の奨学金で励んでいる。スポーツだけでなく学業もしっかりやらないと、奨学金は続かない。この特待生は、各スポーツ連盟からの推薦。

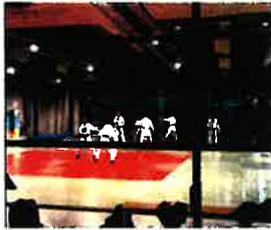
指導者の育成は、国がテクニックや知識などの様々なチェックを行い、ライセンスを与える。身分保障をしっかりとる事で、指導に打ち込める。

ハイレベル選手の才能発掘、育成のシステムができています。それぞれの競技のトレーナーが目利きで才能を見出した場合は、上のランクの育成機関に挙げる。更に上のランクのトレーナーが育成をする。ピラミッ

ド型のシステム構築。

オリンピック・パラリンピックのメダリストは、次の4年後を目指して打ち込めるよう資金が出る。AD Oという制度で企業がイメージアップにもつながることから出している。日本のトヨタも資金提供している。引退の場合は出ない。国を挙げてスポーツに力を入れており、日本でも問題になっているセカンドキャリアについては、いかにして普通の生活に戻してやらせるかが重要であり、引退後の人生をフォローする制度を作っている。

日本とは相互協力を締結をしたことから、スペインは現在、東京オリンピック前のトレーニングキャンプで、水泳、バドミントン、空手、ハンドボールなどが日本で行っている。長崎も今年、スポーツコミッションが訪れており、射撃、ハンドボール、レスリングが事前キャンプの話を進めているので是非とも実現してほしい。長崎はスポーツでの活用をもっともっと行い地域活性、教育面でも力を入れていきたい。



施設視察中に空手女子世界チャンピオンのサンドラ選手と会うことができ、記念撮影を。



11月15日(水) 11:00 在マドリッド日本大使館

水上正史特命全権大使、草野2等書記官と面会。



長崎県とスペインの関係には、外国人登録 8名(2016年6月末)、留学生数1名(長崎大学)、姉妹校交流は長崎外大-サラゴサ大学(市1989年)、アルカラ大学(2002年)、ナバラ大学(2002年)がある。

日本とは、王室がある国と皇室のあるという共通点から親近感もあり、2017年4月はフェリヘ国王夫妻が日本訪問、天皇皇后両陛下と面会された。その後、ワーキングホリデーが可能になったことから、もっともっと密接な関係へとなるであろう。また若者には、日本の漫画やコスプレが人気なこともあり、来日者がもっと増えることを期待したい。

目下の課題は、政治的にはカタルーニャ分離独立問題、経済的には依然高い若年者の失業率(36% 58万人)である。賃金が低いためにEUの他国へと人が流出。

11月15日(水) 14:00 ベルナベウツアー

マドリッドを本拠地とするプロサッカー3チームの1つであるレアル・マドリッドのホームスタジアムであるサンティアゴ・ベルナベウ視察。世界的人気を誇る有名選手が多数在籍し、100年を超える歴史を有する。スタジアム内に併設のミュージアムには過去から現在の栄光、トロフィーやユニフォームなどの展示もあり、歴史博物館のようであり、やはり長い歴史を感じる。

更に併設のショップ (a d i d a s) も日本とは比較にならないほどの品数である。

観客席の地上最高高度は70mであり、観客数は最高85000人である。見学ルートにはロッカールームなどもあり、お気に入り選手のロッカー横で写真撮影もできる。入場料は25ユーロで、高い気もするが、これも大きなチームの財源になっていると感じる。



11月15日 (水) 17:00

マドリッド・アトーチャ駅

駅舎はレンガ造りの歴史的建造物の外観をそのまま保存し、中は植物園。新幹線乗り場のセキュリティチェックは飛行場なみに厳しい。時間厳守でスタート5分前にはゲートが閉じる。

マドリッドからバルセロナ間646km、RENFE (スペイン国鉄) のAVE (スペイン版新幹線) でノンストップ2時間38分。エコノミーで125ユーロ、最高速度300km/時であるが、今後は350km/時運行を目指すという。ドリンク、軽食などの車内サービスも充実。

世界初のフリーゲージトレイン (FGT) 運行も行っているが、長崎で予定されているフリゲージとは全然違う。そもそもの車体の幅が違うことから、スペインのようにはできないらしい。ここは早期のフル規格を望む。

11月16日 (水) 10:00

バルセロナ市観光課・スポーツ部門



オリンピックでのまちづくり、人材教育について、スポーツ部門顧問・エンリック・トゥルーニョ氏と面談。92年のオリンピックの運営担当のお一人でバルセロナ戦略プランを務めた方。

170万人の都市で、郊外を含めると420万人。80年に85%まで落ち込んだ経済から回復。1924年からオリンピックに3回立候補。サマランチ IOC会長の時に決定。オリンピックの目標は開催とともに都市開発、市民の生活向上。当時は78%の市民がオリンピックを期待し楽しみにしていたという。172カ国一万千人の選手、1万人の指導者が参加するオリンピックの意義は街を近代的にし、バルセロナの名前を世界的に広げ観光地となるように。

オリンピックがバルセロナの発展のエンジンとなるように、経済的効果、半官半民の協力体制。バルセロナとかタルーナ、スペインの国の3つの連携、クラブやスポーツ連盟の強化市を4つに分けて競技場や選手村を配置。海の有効活用し、都市部のバランスを考える。他の15の町と共有しての施設を作る。新しい空港、通信網、4500個のアパートメント、5000室のホテルなど。

新しく12のエリアに分けての都市開発は、オリンピックのための特別委員会の設置し、うち51%のスペイン政府、49%がバルセロナの持ち株での会社を作る。街の中心部だけに人が集中しないように配置。貧困層が住んでいた地域や工業地帯も開発し汚染された川なども整地。

1848年に初めて線路設置、環状線を作ったことで20%の混雑が減。

パラリンピックも大成功し、市民参加の大きなイベントになった。バルセロナはその後のオリンピック開催地のモデル的な存在で、ネルソンマンデラが南アフリカのラグビーW杯のモデルにしたと。

オリンピック開催時には、駐車場が少ないように感じるが公共交通機関を利用するように仕向けた。自家用車はなし。選手のための駐車スペースはあり。オリンピック運営委員会が800台分のバスは確保し、別に400台をスポーツ連盟のためなどに確保。

長崎市にも独自の戦略プランを構築することを強く勧められたが、スポーツの力は本当に大きいと思う。がんばらば国体などの経験を継続的に活かすことを考えていかなければならない。

11月16日(水) 11:00

バルセロナ市観光課・観光政策部門



バルセロナオリンピック開催後から今日までの観光政策について。
2020年までの観光政策のディレクターのアルベルト氏。

観光に力を入れている中で、見直しをし、新たな挑戦をするためのプロジェクトを作り、持続可能な観光を目指している。

現在、3000万人の観光客が訪れ、半数は宿泊。92年のオリンピックが契機となり、翌年バルセロナツーリズムコンソーシアム設立。93~2010年までのプロモーション作成から実施を担う。観光客が多くなり過ぎた2007年を受けて、2010~2015年の間は一極集中をさけ、いかに分散させるかが課題となった。観光客を増やすかが2010年までで、その後は分散を目標に。そして今は都市自体を観光客に合わせて変えていくというフェーズに入っている。

ホテルの建設と部屋数も増え続け、最近は一泊型というスタイルが増えている。ライセンスが与えられた人だけが運営できるが、競争力を高めるためにホテルなどとの競合。

非合法も増えていることも問題。

住民より観光客が増えているところも多く、市民にとっては、来てもらい過ぎに困惑の声も出ている。また、それだけ観光客が増えているにもかかわらず観光産業に関わっている人材のサラリーも上がっていないことも問題になっている。

バルセロナにとって、生活者と共生ができない状況になっており、ツーリズムの範疇だけでは考えられないところまで来ている。市の政策として切実なところに来ており、街が継続していくための持続可能を考えなければならないところに来ている。

観光と都市政策を一体的に、六十人の有識者（政治家、住民、など）の協議会設立。

ホテルを作っても良い、作って欲しい、作れないとゾーンニングし、市民生活を守るプランを作成。同時に3万個ある非合法の宿泊施設の取り締まり強化。観光政策のロードマップを多くの声を反映しながら作成。

調査とこれからどう構築できるのか分析が重要である。

持続可能である状況も保ちながら、観光客への快適な環境を作っていくことも重要。

ガウディ、文化的万博、音楽フェスティバル、見本市、ワールドモバイルコンGRESS（10万人）など都市の開発が進んできたことも観光客を呼び込んでいる。

ツーリストのアンケートでは、徒歩が可能な町が95%である事の評価が高く、非日常を求めている人は少ない。文化レベルなどを求めている人は多い。

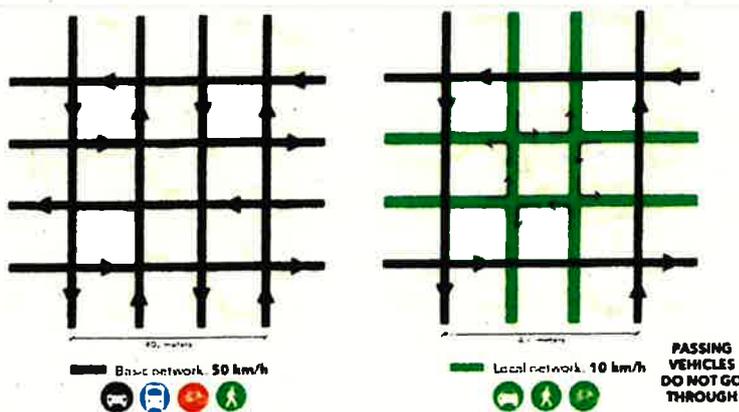
入場制限の所や渋滞も多く、ツーリストばかりで面白くないとの声も多い。

成功で我々は死んだという言葉が印象的である。



観光客をもてなせる街とその街の市民の共生が、持続可能な都市作りには必要であり、分析など参考になることが多かった。

11月16日（水）13:00 都市開発プロジェクト・スーパーブロック現地視察



スーパーブロックとは碁盤の目のように分けられた街中のブロック9つを1つのセットにしたもので、1つ1つのブロックを通る道路は自動車の走行を10キロに規制し、運送会社の自動車や市営バスなどはスーパーブロックの外側を通行するという仕組みである。

自動車による交通渋滞の慢性化、排ガスによる市内の空気汚染の対策のため、2014年のアーバン・モビリティ・プランにより、都市部の人々の移動を自動車以外の交通手段にシフトする試みである。バルセロナ市議会はスーパーブロックによって次の6つの目標達成を目指している。①より持続可能なモビリティ②公共スペースの再活性化③生物の多様性と緑化の推進④都市部の社会構造と一体性の促進⑤資源の自給自足の促進⑥住民のバルセロナ市の政策参加。地球上でもっとも歩きやすく、歩行者にやさしいデザインの街を目指しており、この実験プロジェクトを海外にも販売したい考えのようである。



市が推進している政策の一方、反対の住民も増えているらしい。突然の規制により、民主的手続きの欠如、住民に対する市側の説明不足、スーパーブロック外側の渋滞・騒音・大気汚染。生活者の移動の時間ロス、治安の悪化、駐車場不足、商業衰退、サービスの遅延などである。

そこで、ポプレノウ・スーパーブロック被害者の会のジョルディー・カンピス会長と面会し、現地の視察を行った。

車から生活を守ろうという市の考え方はある一定理解もできるし、地域によっては面白い試みでもある。しかし自分の住んでいるところでの規制が突然始まったら、かなり不便でもあると思う。まちづくりのあり方の参考に非常になったし、今後も注目したい。

11月16日(水) 16:00 世界遺産3ヶ所 現地視察

◎ サグラダファミリア

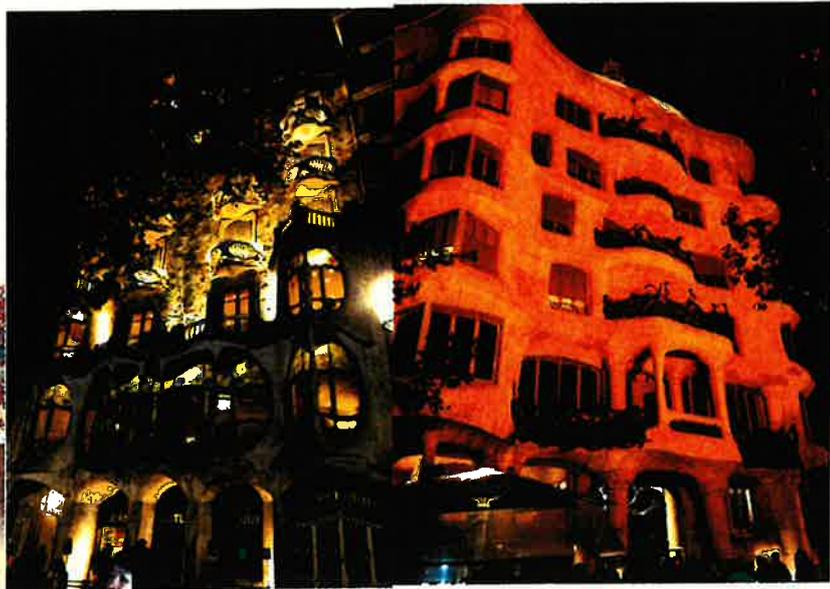
建築家アントニオ・ガウディの代表的作品で、130年以上も建設工事が続く未完のカトリック教会。1984年に世界遺産に文化遺産として登録、2005年にガウディの作品群として追加登録。1882年に着工開始した当時は完成に300年かかると言われた。IT技術の発達により現在は2026年の完成を目指している。ガウディ没後100年に当たる年。生誕の門に飾られている『15体の天使の像』は主任彫刻家が日本人の外尾悦郎氏。1978年に福岡からバルセロナに移り、活動中。

◎ 世界遺産 カサ・バトリョ

建築家アントニ・ガウディにより建設された建物で、曲線を特徴とするモデルニスモの顕著な例として、世界中から高い評価を得ている建物。もとは繊維業者のジョゼップ・バトリョ・イ・カザノバスの依頼で、1877年に建設され、1904～1906年に、ガウディによって改築。2005年に「アントニ・ガウディの作品群」としてユネスコの世界遺産に登録。必見の観光名所で、現在は、飴のチュッパチャップスが所有。海底をイメージして波打った階段の手すり、魚の鱗を表現した壁、海の輝きとフルーツが混じったシャンデリアなどが見所。

◎ 世界遺産 カサ・ミラ

ガウディが54歳の時に設計し、1905年から2年かけ実業家のペレ・ミラとその妻ルゼー・セギモンの邸宅兼集合住宅として建設。1984年にユネスコの世界遺産に登録。2005年に「アントニ・ガウディの作品群」としてユネスコの世界遺産に登録。現在でも4世帯が実際に居住。



世界中の人々に知られているだけの価値があった。その歴史にあるストーリーがわかりやすく説明され、短時間でも非常にためになるように設えられていた。このようなところは見習うべきであるし、日本と違いとにかく古いものの価値を大切にしていることが一番である。壊してしまつては、未来に本物の歴史を継承はできないと思う。

今視察は、長崎県で力を入れている文化芸術、スポーツ、観光分野、街づくりなど多岐にわたるものであった。短い時間で多くのレクチャーをいただき、現地視察をすることができ、今後の長崎に活かせる実り多き視察でした！

海外研修視察報告書

平成29年12月6日

長崎県議会議長 様

議員 中島浩介

海外研修視察を実施しましたので、つぎのとおり報告致します。

1. 日程 平成29年11月12日(火)から
平成29年11月18日(金)まで
2. 訪問国 スペイン(マドリード、バルセロナ)
3. 調査目的
 - ① プラド美術館と長崎美術館との交流状況、施設の運営状況
 - ② スペイン政府スポーツ省の人材育成、施設管理運営状況
 - ③ スーパーブロック制度の取り組み状況
 - ④ サグラダ・ファミリヤの観光客受け入れ体制の取り組みについて
 - ⑤ マドリード日本大使館にてスペインでの日本企業の取り組みについて
 - ⑥ オリンピック開催における地域づくりの成果について
4. 調査事項
 - ① プラド美術館 アンドレス・ウベタ副館長から聞き取り調査
 - ② スペイン政府スポーツ省 スポーツ最高議会議長代理 ハイメ・テル・レイ氏より聞き取り調査
 - ③ スーパーブロック被害の会会長ポプウレノウ氏と現地にて調査
 - ④ 日本語通訳アナウンス等を活用した観光案内について
 - ⑤ 在マドリード日本大使館 水上正史特命全権大使、草野2等書記官からの聞き取り調査
 - ⑥ スペイン教育文化スポーツ省スポーツ高等スポーツ評議会ハイメ・ゴンザレスゼネラルディレクターから聞き取り調査
5. 調査結果(別紙により作成)
6. 調査により得られた成果及び県政への反映方策(別紙により作成)

月日(曜) 現地時間	調査地 (都市名・地域名)	訪問先 (団体名・個人名等)	調査結果
11月14日(火) 10:00 12:00	スペイン (マドリード)	プラド美術館 アンドレス・ウベダ副館長 (コレクション保存ディレクター)	<p>長崎美術館との交流状況、施設の運営状況 長崎美術館との関係に満足している。 長崎からのインターンも学ばせており、先月も来られた。 プラドが学校・学芸員を対象としたコレクションの選定・管理し合法的に貸出し学校を開校している。</p> <p>「プラド美術館のオリジナルグッズを長崎美術館で販売しているが」 プラド美術館外部の会社が製造・販売している。 「長崎美術館開館5・10周年は特別展示をお世話になりました ぜひ15周年もよい作品を貸出して戴きたい」 2019年は当美術館の200周年となり、今年5月の会議で5月以降の貸出しができなくなった。ただ事前に要望があった分は貸し出す。</p> <p>「長崎からは、要望があっているのか帰って確認したい」 年間入場者数は約300万人、昨年はエルボスココレクションを開き350万人の来館者があった。</p> <p>「運営費において国などからの支援はあるのか」 運営費は年間52.8億円で、17.16億円を国から支援してもらっており、それ以外は美術館の作品貸出料や入場料、寄付金（銀行等の企業や個人）で賄っている。</p> <p>市からの支援はない。マドリード州は特別展については、補助金を出している。</p> <p>午後6時から8時までは常設展のみではあるが入場無料にしている。 以前、日本の北斎版画展を開催して人気があった。 従業員は450人（警備員が150人、保存・修復・X線技術者が50人） プラドアミーゴス財団の支援を受けて子供たちを呼んで作品を見てもらっている。</p>

<p>13:30 15:00</p>	<p>スペイン (マドリード)</p>	<p>マルガードーナ</p>	<p>チェーン店のスーパーマーケットでマーケットシェアを14パーセントまで拡大し、売り上げは191億ユーロ。各専門店が多くの品ぞろえをしており商品の4割が自社ブランド。7万人の従業員すべてが正社員。</p>
------------------------	---------------------	----------------	---

16:00
17:30

スペイン (マドリード)

スペイン教育文化スポーツ省
スポーツ高等スポーツ評議会
ハイメ・ゴンザレスゼネラルディレクター
ハイメ・デルイレ会長代行

現在まで発展してきた日本とのスポーツ交流に満足している。
更なる発展を希望している。
東京、大阪、広島などから水泳、空手、バドミントンの選手がスペイン選手と研修交流を行ってきた。
スポーツは社会、経済、教育として必要とされている。
経済にスポット当てると国民総生産の2.8パーセントをスポーツが占めている。
スペインの選手は有名人として大事な役目を担っている。
教育面としては、小学校からスポーツをして健康的な習慣を身につけさせる。
国民の利益とプロモーションに力を入れている。
①古くは女性がスポーツ界に登場してこなかったが、今日では、男性より活躍している競技もある。
②できるだけ早いうちからスポーツに取り組みよう指導している。
③障害者のためのスポーツにも力を入れている。
ハイレベルな選手の育成 (欧州大会、世界大会、オリンピック)
自治州がそれぞれ独自のハイレベルなスポーツセンターを持っている。

評

議会に4つの大型スポーツ施設があり、最優秀のスポーツ選手が海外からも合宿に来て競技力向上に取り組んでいる。
人気は標高2000mのシアラネバタセンターで2016年3月には水泳の日本代表チームが合宿を行った。
この4つのセンターで高校生まで企業からの100パーセントの奨学金を活用しセンター内の学校、寮で生活している。
サッカーが有名ではあるが、どのスポーツも平等に強化している。
学業も単位を取らなければ次の奨学金を受けられない。
指導者はテクニク、知識の試験があり、公式なライセンスを与えられている。指導者はピラミッド型で、下のものが上の指導者から指導を受ける。選手のセカンドキャリアについては、センターのプログラムとして「プロワット」第二の人生をフォオローしていくプログラムがある。ハイレベルな選手が引退後、普通の生活に戻すことをフォローしている。

17:30			スポーツ施設の見学
18:30			
11月15日(水)	スペイン (マドリード)	在マドリード日本大使館 水上正史特命全権大使 草野2等書記官	<p>スペインでは、東京三菱UFJ、三井物産、三菱商事が海外受注をスペイン企業に発注（建設工事）している。日本のゼネコンは東日本震災やオリンピック等で海外には進出していない。</p> <p>日本とスペインとの橋渡しを三菱商事の鈴木社長が取り仕切っている。</p> <p>スペインは工業技術が高く、3つの海域があり水産物の種類も多く海産物、牛、豚（生ハム）が豊富。特に豚はドンダリの美を食べて成長しているので品質が高い。</p> <p>漫画、アニメコスプレ等で若者が日本に興味を持ち出している。</p> <p>今年4月に日本とワーキングホリデーを相互にやることで調印した。希望者を募りお互い250人を計画している。</p> <p>再生エネルギーについては、風車の伝統があり、洋上風力発電を日本企業とベンチャーで取り組んでいる。</p> <p>大使館としては、日本の総理、皇族関係の来訪を働きかけている。</p>
14:00	スペイン (マドリード)	バルナベウ・ツアー (スタジアム)	<p>マドリードを本拠地とするプロサッカー3チームの一つであるレアル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マドリードのホームスタジアムである。 <p>観客席の高さは高い所で70mもあり、観客席は8万5千人である。</p> <p>スタジアム内に併設されたミュージアムは歴代選手のユニフォームやトロフィーの展示もあり、併設のショップも日本とは比べにならないくらいの商品があった。</p>
15:30			

<p>1月16日(木) 10:00 11:30</p>	<p>スペイン(バルセロナ)</p>	<p>バルセロナ市役所観光課 市スポーツ部門顧問 エンリック・トゥルーニョ</p>	<p>19年間バルセロナ市役所の顧問をやっている。 1992年のオリンピック委員会の(運営)のメンバーでした。 オリンピックを機に近代的な街づくりのイメージを世界に広げる。 (オリンピックの目的) ①ベストな大会運営 ②バルセロナ発展の基になるように ③大会終了後の働きかけ ④経済効果 ⑤人民協力 ⑥クラブ連盟の再強化 ⑦バルセロナの世界的な広報活動 ⑧観光都市計画 都市開発プロジェクト。市が周辺エリア、4つエリアにそれぞれの競技場、宿舎を配置、海の有効活用 中心地から40km道路整備、他の15町とシェアした新たな施設、新しい空港を建設。 2つの高速通信のタワーの建設。 4500人のアパート(宿舎)、5000室のホテルを新設。 12のエリアに分けて都市開発、環状線道路で車の集中を避ける(20%の渋滞減)都市再生、近代化、駅舎をスポーツホールに回収 パラリンピックも同様にどの競技も満席だった。 その後のオリンピック開催地もバルセロナを参考にしている。 交通対策として800台のバスと400台のバンを準備した。</p> <p>「長崎県は東京オリンピック時のスペインハンドンボールチームの合宿をお願いしている」 個人的にハンドンボール連盟を知っている。今の委員長も懇意にしているので、お手伝いできますよ。言って戴いた。</p>
<p>13:00 15:00</p>		<p>都市開発プロジェクト ポブレノウ・スパーブロッ ク被害者の会長</p>	<p>スーパーブロック制度の民主的手続きの欠如、住民に対する市の説明不足。スパーブロック外側の渋滞・騒音・大気汚染。 生活者の移動時間のロス、駐車場不足、商業の衰退などの問題が生じている。</p>

<p>16:00 17:00</p>		<p>サグラダ・ファミリア</p>	<p>世界遺産を視察 日本語でのイヤホン説明の内容が丁寧であり、受け入れ体制はよかったです。長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産においても、しっかりとしたストーリーのある外国語説明の体制が必要と思う。</p>
<p>11月17日(金) 07:00 09:30</p>	<p>AVEにてマドリッドへ バドリード</p>		



海外研修視察報告書

平成29年12月6日

長崎県議会議長様

長崎県議会議員 中島 廣義

1、期間 平成29年11月12日～平成29年11月18日

2、視察先 スペイン(マドリッド・バルセロナ)

3、視察目的

- ①文化芸術、スポーツ、観光分野等で先進国スペインにおける取組みを調査し、本県の今後の振興策の参考にする。
- ②世界遺産の保存管理、観光客受け入れ体制等を調査し、今後の課題、対策の参考にする。
- ③観光都市スペインの環境保全や高速交通を調査し、今後の参考にする。

4、調査事項

- ①長崎県美術館と交流のあるプラド美術館の運営、来客対応、今後の連携について
- ②スポーツにおける人材育成、施設整備、管理状況、今後の相互交流について
- ③在スペイン日本大使館表敬訪問、スペインの概況
- ④マドリッド～バルセロナ間の高速新幹線について
- ⑤バルセロナ市の観光戦略、都市開発戦略について
- ⑥バルセロナ市の世界遺産サクラダファミリア視察

5、調査結果

- プラド美術館においては、施設の運営、長崎美術館との交流状況等についてアンドレス・ウベタ副館長から説明を受ける。
館内には古代から20世紀初頭までの2万点を越える収蔵作品を有し、年間300万人の入場者が訪れる。
作品の保管管理、入場者に対する対応等も良好。
- 長崎美術館への作品の貸し出し、人的交流促進をお願いする。
- スペイン教育文化スポーツ省では、ハイメ・デルイレ会長代行より説明と館内施設の案内をいただいた。

国全体が幼少の頃から体づくり、スポーツによる健康維持、トップアスリート等の育成について積極的な教育を推進。広大な敷地に種目毎の施設が整備され、学校、学生寮も整備されている。

- 行政でこのような施設を運営するのは難しいと思うが、本県でもトップアスリートを育成していく為には、幼少からのスポーツ教育と施設整備を充実させる必要がある。

- 在マドリッド日本大使館を表敬訪問、水上特命全権大使、草野2等書記官と面会、スペインの概況、わが国、本県との経済、文化交流等の関係について説明を受ける。
- 日本、本県企業の進出や貿易等について関係強化が十分考えられる。本県は芸術、文化、人的交流の協力関係促進を図る必要がある。

- レアル・マドリッドのホームスタジアムを視察。観客席8500席、地上最高高度70m、スタジアム内にはトロフィーやユニホーム、選手等の写真などの展示、併設のショップは品数が豊富。
- マドリッド・アトーチャ駅は駅舎がレンガ造りの歴史的建造物の外観を保存、新幹線乗り場はセキュリティーチェックが空港並みに厳しく、時間厳守で5分前にはゲートが閉じる。マドリッドからバルセロナ間646kmノンストップで2時間38分。最高速度300kmで今後350kmを目指している。
- セキュリティと646km間をノンストップには驚嘆した。

- 街づくりや人材教育の戦略プランを策定する前ディレクターのスポーツ部門顧問エンリック・トゥルーニョ氏と面談。
市内を4つのエリアに分けて開発、西側がローマ時代の古い街、東側が新しい街。
2020年に向けた観光戦略プランを策定するアルベルト・アリアス現ディレクターと面談。バルセロナの年間観光客は約3000万人宿泊、日帰りがそれぞれ1500万人。都市計画で地域によってホテル新設を規制するなどの措置で住人たちの生活環境を保持。徒歩で可能な街、散策の街づくりを推進。交通、ショッピング、文化芸術、安全等の要素を重視した街づくりプランである。
- エリアを設けて開発することは観光立県である本県にとっては大事だ。バルセロナの都市計画は参考にすべし。

- 世界遺産サグラダファミリア・ガウディー作品カサ・バトリョとカサ・ミラを視察。世界各国からの多数の観光客が来客。

◎スペインの文化芸術、スポーツ教育、観光行政、世界遺産環境整備、高速鉄道整備、都市計画等について学ぶことができた。
日本企業の拠点数は独・英・仏・蘭に次ぐ欧州第5位
スペイン全体で約1500人がスペイン語で日本を意味する「ハボン」の性を名乗っている、「日本」性の町がある等々について見識を得ることができた。

海外研修視察報告書

平成29年2月6日

長崎県議会議長 様

長崎県議会議員

田中 愛国

海外研修視察について下記の通り報告いたします。

1. 期 間 平成29年11月12日～11月18日
2. 視察先 スペイン（マドリッド、バルセロナ）
3. 目 的

*長崎県で力を入れている文化・芸術・スポーツ・観光分野などで先進国スペインを調査し今後の振興策の参考にするため。

*特に世界遺産37を有するスペインの観光客の動向について調査したい。

*特にバルセロナにおける観光都市の環境保全対策や高速交通を調査すること。

4. 調査結果

11月14日（火）10:00 プラド美術館

副館長 アンドレス・ウベダ氏と面会

美術館の概要としては、スタッフ約400人（うち警備150人・修復技術員50人を含む）

来客数は年間300万人を超え運営管理に年間約4000万ユーロの経費がかかる。

（うち1300万ユーロは、国からの補助 残りは入場料・寄付等で賄う）

13:30 メルカドーナ

国内のみのチェーン店のスーパーマーケット

商品数8千種類の約4割はプライベートブランド

現在の7万人の社員はすべて正社員。

従業員を正社員にすることで、躍進したとのことであり働き方改革の1つの例になると思う。

16:00 スペイン教育文化スポーツ省

高等スポーツ評議会のハイメ・ゴンザレス ゼネラル
ディレクター ハイメ・デルレイ会長代理と面会

選手育成システムとして各州にハイレベルスポーツセンターがあり 更に高等スポーツ評議会直属の国内4つの施設としてマドリッド、バルセロナ、グラナダ、レオンに高性能スポーツセンターがある。

この4つのセンターには各々400名が収容できる内容になっている。

ハイレベルスポーツ選手の子供たちは100%国の奨学金で励んでいる。

この特待生は、各スポーツ連盟からの推薦。

指導者の育成については、ライセンスを与え身分保障をしっかりとる事で指導に打ち込める環境となっている。

ピラミッド型のシステムが構築されている事が特徴。

- 11月15日(水) 11:00 在マドリッド日本大使館
水上正史氏 特命全権大使、草野2等書記官と面会
- 14:00 ベルナベウツアー
マドリッドを本拠地とするプロサッカーチームの1つである
レアルマドリッドのホームスタジアムであるサンディエゴ・ベルナベウを視察
観客席の地上最高 高度は70mであり。観客数は8万5千人 収容と規模が大きい施設内容である。
- 17:00 マドリッド アトーチャ駅
マドリッド、バルセロナ間 646km スペイン版新幹線でノンストップ2時間38分 最高速度300km毎時
今後は、350km毎時を目指すという。
- 11月16日(土) 10:00 バルセロナ観光課 スポーツ部門 オリンピックでのまちづくり 人材教育についてスポーツ部門
顧問のエンリック・トゥルーニョ氏と面談
オリンピック運営担当の1人でオリンピック開催で都市開発、市民生活向上を目標にその後バルセロナを観光都市に発展させた。
現在の観光客は3000万人で宿泊、日帰り概ね半々。
- 11:00 バルセロナ観光課 観光政策部門 2020年迄の観光政策の責任者 アルベルト氏と面談

現在の観光客数は3000万人で宿泊、日帰り、半々の実態であるが今日の課題としては観光客の増加が市民生活との整合において種々の問題が出ており市の政策として種々考えられており 持続可能を目標に検討中。

13:00 都市開発プロジェクト スーパーブロック視察
市の政策の1つであるが賛否両論あり現在にいたる。

16:00 世界遺産3ヶ所 現地視察
サクラダファミリア、アサ バトリョ・カサ ミラ
これらは、建築家 アントニオ・ガウディーの代表的な作品であり、他にもあるとの事びっくりである。

以上 実質3日間の視察であった。

スポーツの盛んな国でスポーツを柱にして地域活性化、経済活性化がはかれる。

今後の議員活動に生かしてみたい。

国の施策としては、オリンピック後の観光客増対策で経済活性化を図るべきと考えられる。